

新潟県内を震源として発生したこれまでの地震

	県外震源	震央の地名	西暦(年月日)	和暦(年月日)	規模等	震度観測記録・被害の状況等	津波観測記録・被害の状況等
019	△	不明(越中・越後とあるのみ)	863 7 10	貞観 5 6 17	M=7以上?	・山崩れ谷埋まり、水湧き、民家破壊し、圧死者多数 ・直江津付近にあって数個の小島がこの地震により潰滅したという ※新潟県和島村大字島崎字八幡林の八幡林遺跡で地割れの地震跡	確実な史料に津波記事はない
	△	不明(越後?)	887 8 2	仁和 3 7 6	不明	・越後に関する史料の信憑性は不十分 ・京都有感	津波を伴い、溺死者数千という
	△	不明(越後?)	1092 9 13	寛治 6 8 3	不明	・「地震」とある古記はあるが、地震の状況を記した古記録は未発見 ・疑わしい	柏崎～岩船間の沿岸、海府浦・親不知が大津波に襲われる
069		越後南西部	1502 1 28	文亀 1 12 10	E=138.2° N=37.2° M=6.5~7.0	・越後の国府(現直江津)で潰家及び死者多数 ・余震5~6日続く ・会津でも強くゆれたという	
071	△	不明	1517 7 18	永正 14 6 20	不明	・倒家多し ・「読本朝通鑑」に載せる。史料少なく詳細不明	
087	△	不明	1614 11 26	慶長 19 10 25	不明 (右記の注) ※地震被害①~③を重視すると東海沖、①と⑥を重視すると南海沖のM7~7.5程度、⑤は疑わしい、④と⑥ははっきりしない	主な被害記録 ①京都で家屋転倒なく、天水桶落ちる ②桑名で家蔵など少し損壊 ③田原(三河)城の矢倉三つ四つ崩れる ④伊勢に津波 ⑤高田に大地震・大津波、死者あり ⑥道後温泉湧出止まる ⑦江戸池上本門寺の五重塔が傾く など 他にも、会津、小田原、伊豆、駿河、伊那、奈良、大阪、田辺などに地震記録「徳川実紀」では京洛で死者2、負傷370、二条城の損傷なし	左記参照
097-1		不明(越後中魚沼郡?)	1636 12 3	寛永 13 11 6	不明	・外丸村田沢入口の鍋倉の土地を押し出し、田沢部落(3戸)をはぎとり、川をせき止め、20日後に決壊し、下手の原村全戸(8~9戸)を埋没 ・被害200石余 ・寛永14年という文書もある	
121		越後西部	1666 2 1	寛文 5 12 27	E=138.2° N=37.1° M=6 3/4	・積雪約4.5mのときに地震 ・高田城本丸、二の丸、三の丸破損 ・侍屋敷700余潰れ、民家倒壊多数 ・夜に入って火災 ・死者1,400~1,500人、家老2人死、家中の死155人余 ・地割れて、雪上まで青土出る ・在では石すえの家は倒れ、掘っ立ての家は残る	
125-1		越後中・南蒲原	1670 6 22	寛文 10 5 5	E=139.25° N=37.85° M=6 3/4	・城中・家中別条なく、上川4万石(新津・五泉・水原・安田)のうち百姓家503(あるいは533)軒禿、死者13人、田畑荒れ、植田200余町?ゆり込む ・新津正法寺被害あり ・盛岡、江戸有感 ・震央はもう少し西という意見もある	
178-1		中魚沼郡	1738 1 3	天文 2 11 閏 13	E=138.7° N=37.0° M=5.5	・津南町付近で14日朝まで80回余、14日70~80回、同日夜60~70回 ・(余震は)翌年に及ぶ ・蔵の壁の損傷、釜が潰れる ・津南町中深見で屋敷が崩れる ・14日長岡地震、また閏11月6日小国谷で地震ともいう	

新潟県内を震源として発生したこれまでの地震

	県外震源	震央の地名	西暦(年月日)	和暦(年月日)	規模等	震度観測記録・被害の状況等	津波観測記録・被害の状況等
179-1		不明(佐渡?)	1739 10 31	天文 4 9 29	不明	・相川の小家少々破損 ・津軽、日航で有感 ・史料少なく、震央・規模については後察を待つ	
185		越後高田	1751 5 21	寛延(宝暦) 4(1) 4 26	E=138.2° N=37.1° M=7.0~7.4	・高田城の多間櫓、三重櫓など大破、破損 ・高田町方3箇所から出火 ・被害状況は表185-1のとおり ・鉢崎、直江津、糸魚川、桑取谷、能生谷、名立谷で山崩れ多い ・特に名立小泊で圧死406(人口525)、81戸埋などで、戸数が回復したのは大正初期 ・余震は5月10日頃までに約100回など	
190		越後(現白根付近)	1762 3 29	宝暦 12 3 4	E=139.0° N=37.8° M=5.5~6.0	・新潟で土蔵上塗に亀裂を生ず ・とくに三条で強く感じた ・日光、佐原、羽前村山郡で有感	
191		佐渡	1762 10 31	宝暦 12 9 15	E=138.7° N=38.1° M=7.0	・石垣所々崩れ、家屋破損、銀山道崩れ、死者あり ・真野村順徳院の石垣崩れる ・新潟で地割れ、砂と水を噴出(液状化?) など ・酒田、羽前南村山郡、日光、江戸で有感	・鶴島村で津波26戸流出、願村で18軒流出など
205-2	△	不明	1778 12 17	安永 8 11 10	不明	・(佐渡)濁川の町家ところどころ損ずという ・江戸で強く感じ、只見で大地震という ・被害記録少し	
222		佐渡(小木)	1802 12 9	享和 2 11 15	E=138.35° N=37.8° M=6.5~7.0	・西南海岸(沢崎~赤泊間)が隆起、小木で2m隆起し120m干潟となる ・その東、徳和~岩首間の海岸が沈んだともいう ・小木で453戸殆どが全潰、うち328戸焼失、死18 ・佐渡3郡全体で破損家1,423、死19など ・最も被害が大きかったのは、小木半島と国中平野西半分だった ・鶴岡で強く有感、米沢、江戸、日光、高山、秋田、弘前で有感	
235		越後(現燕、見附間)	1828 12 18	文政 11 11 12	E=138.9° N=37.6° M=6.9	・激震地域は信濃川流域の平地(燕、見附、中之島で囲まれた範囲) ・1964新潟地震のように、地割れから水や青い水が噴出、建物が土中に1m前後ゆり込んだ(流砂現象)という記事が多くみられる ・被害実数は出典により異同が大きくつかみにくい(幕府への報告と「資料三条地震」から表235-1のとおり)	
247-1	△	不明	1847 2 15	弘化 4 1 1	不明	・越後高田の(城内?)諸所破損、長屋も破損 ・明け方までに(揺れ)数回、江戸などで有感?	
249		越後(上越犀潟付近)	1847 5 13	弘化 4 3 29	E=138.3° N=37.2° M=6 1/2 ±1/4	・24日(248番)の地震被害と区別できないところが多い ・頸城地方で潰家・大破、死傷、地割れ、泥噴出、田畑埋没あり ・現直江津の川端町で潰40、液状化現象もあったらしい ・高田家中皆潰17、足軽長屋残らず大破、直江津で300余潰の記録もあり ・24日、29日の地震で、頸城郡の代官領の村々136(4,506戸)で潰293、半潰1,034、大破148(又は248)、死16という ・高田城内(異本で町在)で全潰447、破損1,671、死5あった	
289	△	信越県境(新潟県東頸城)	1886 7 23	明治 19 7 23	E=138.5° N=37.05° M=5.3	・野沢温泉止まる ・東頸城郡仁上村で土蔵4破損 など	
291		新潟県古志郡	1887 7 22	明治 20 7 22	E=138.9° N=37.5° M=5.7	・古志郡で土蔵の2/3は壁に亀裂、剥落も多し ・家屋潰・半潰あり、傷1、地割れ100箇所余 ・隣接の郡にも地割れ、壁の亀裂等の被害あり ・概して、信濃川沿岸が激しかった	

新潟県内を震源として発生したこれまでの地震

	県外震源	震央の地名	西暦(年月日)	和暦(年月日)	規模等	震度観測記録・被害の状況等	津波観測記録・被害の状況等
326		新潟県六日町付近	1898 5 26	明治 31 5 26	E=138.9° N=37.0° M=6.1	<ul style="list-style-type: none"> ・局発的地震 ・六日町で土蔵や家屋の壁の亀裂、墓碑の転倒、田畑の亀裂、噴砂など ・群馬県藤原で付近の山が崩れ、地面の亀裂、家屋の損壊など 	
356		新潟県六日町付近	1904 5 8	明治 37 5 8	E=138.9° N=37.1° M=6.1	<ul style="list-style-type: none"> ・南魚沼郡五十沢村で家屋、土蔵の破損、道路の亀裂から青砂を噴出、落石 ・城内村で瓦の墜落、障壁の亀裂、墓石の転倒など ・埼玉県秩父付近、長野県、南魚沼郡、新潟市まで広範囲で震度5 	
360		新潟県安塚町付近	1905 7 23	明治 38 7 23	E=138.45° N=37.15° M=5.2	<ul style="list-style-type: none"> ・安塚町で屋壁に亀裂 ・極めて局所的なもの 	
401		高田付近	1914 11 15	大正 3 11 15	E=138.1° N=37.1° M=5.7	<ul style="list-style-type: none"> ・高田、直江津、桑取谷で家、土蔵の壁の落下、亀裂、屋根石の転落 ・石碑転倒があり、桑取谷では山崩れがあった 	
447		新潟県中部	1927 10 27	昭和 2 10 27	E=138.8° N=37.5° M=5.2 h=10km	<ul style="list-style-type: none"> ・関原地震（局部的強震・新潟県三島郡関原、宮本、日吉の3村、直径3kmの地に被害 ・日吉村の鳥越、出雲関の県道大破、宮本村西田の田圃内に石油ガス噴出孔を生じ、青砂と石油を噴出 	
475		新潟県小千谷	1933 10 4	昭和 8 10 4	E=138.82° N=37.28° M=6.1 h=0km	<ul style="list-style-type: none"> ・小千谷付近の川口、堀之内、田麦山等の村々で強く、屋根石の落下、壁の亀裂など 	
523		新潟県南部	1951 1 9	昭和 26 1 9	E=138.52° N=37.13° M=6.1 h=50km	<ul style="list-style-type: none"> ・震央付近で墓石の転倒、窓ガラス破損、炭焼小屋倒壊などの僅少被害あり 	
547		長岡付近	1961 2 2	昭和 36 2 2	E=138.50° N=37.27° M=5.2 h=20km	<ul style="list-style-type: none"> ・典型的な局発被害地震 ・被害域の中心から東へ2km離れた長岡市旧市内は殆ど被害なし ・震度6の地域は径約3kmの狭い範囲 ・積雪は非住家に対して被害を増大し、墓石などの被害を押しやる働きをした ・井戸水の変化、噴泥もみられた ・住家の倒壊では、2階が倒壊したのがあり、多くの死傷者を出した（一般に屋根が重く、耐震用の斜材を使っていない家が多かった ・有感余震は2日40回から減少したが、5月30日に最大の余震(?)が発生した 	
562		新潟県沖	1964 6 16	昭和 39 6 16	E=139.11° N=38.21° M=7.5 h=40km	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は新潟、山形を中心に9県に及ぶ ・被害総括は表562-1を参照 ・新潟市内で昭和石油のタンクに引火、7月1日消火 ・この地震の特徴として、噴砂水がある（新潟市、酒田市） ・新潟市内1,500の鉄筋コンクリート建物のうち310が被害を受け、そのうち2/3が全体として傾いたり沈んだりした ・深さ20mの基盤まで杭を打った建物は被害を受けなかった ・トランジスタラジオが正確な情報を伝え、デマ防止に役だった 	
647		新潟県南西部沿岸	1983 10 16	昭和 58 10 16	E=137.58° N=37.07° M=6.9 h=10km	<ul style="list-style-type: none"> ・能生町で石灯籠が倒れたり、石鳥居の笹木が折れたり、家屋の壁に小被害が出た ・公式震度の最大は高田でⅢ 	

新潟県内を震源として発生したこれまでの地震

資料3

	県外震源	震央の地名	西暦(年月日)	和暦(年月日)	規模等	震度観測記録・被害の状況等	津波観測記録・被害の状況等
681		新潟県南部	1990 12 7	平成 2 12 7	E=138.33° N=37.12° M=5.3 h=4km	<ul style="list-style-type: none"> ・この地震の2分前にM=5.4の地震が発生している ・高柳町を中心に傷13、道路の被害多く、亀裂、陥没、決壊など数十箇所にあんだ ・断水も50戸に達した ・井戸水が濁ったり、地鳴りが聞こえた ・住家一部破損 高柳町424棟、大島村・浦川原村各2棟 など ・震央付近の震度はVと推定される 	
704		新潟県北東部	1995 4 1	平成 7 4 1	E=139.15° N=37.53° M=5.5 h=16.1km	<ul style="list-style-type: none"> ・相川、新潟で最大震度IV（震源地付近はVか） ・豊浦町、水原町、笹神村などで被害 	
724		中越地方	1998 2 1	平成 10	E=138.47° N=36.15° M=5.0 h=19km	軽傷1、ブロック塀落下1、震央付近の最大震度4	
748		中越地方	2001 1 4	平成 14	E=138.46° N=36.57° M=5.1 h=11km	震源は津南町近く、最大震度5弱 1月2日19時53分（E=138.36° N=37.15°、M=4.4、h=15km）に最大震度5弱の地震があったが、被害はなかった この地震の東南約35kmの地点に本地震が発生 塩沢町で軽傷2、他に住家一部破損592棟、有感余震は1月4日と1月16日の2回	